

# 渡良瀬遊水地エリア検討部会

## 前回会議の意見

平成29年3月9日



## 前回会議の意見

No.	第2回「検討部会」での指摘（要約）
	<b>渡良瀬遊水地エリアのコウノトリ生息環境評価について</b>
1	生息環境を3カ月区切りで評価しているが、水田の環境は大きく変化する。たとえば6月と7月はほぼ同じ状態と思うが、8月と9月は大きく異なる。 <u>1ヶ月単位で大きく環境が異なることもあることを、示して欲しい。</u>
2	餌量だけでなく、 <u>生息の物理環境もマップ化し、重ね合わせることで評価されていく。</u> 生息ポテンシャルがゼロの場所も土地利用面からあると思う。
3	<u>生息環境整備がある地区に集中して実施されたら、エリア全体としてのコウノトリの生息ペア数は増えないのではないのか。</u>
4	この <u>マップの精緻化</u> を今後進めて欲しい。
5	生息環境評価のマップを見ても川の環境が貧弱である。 <u>川の中の治水とリンクした形の湿地再生などが、コウノトリの野生復帰に結びつけばと思う。</u>
6	<u>治水と環境が連携したモデルとして、渡良瀬遊水地での取組みの良さを渡良瀬遊水地以外へも広めていく視点を示すべきである。</u>
7	<u>コウノトリが実際に滞在した場所のデータとも比較</u> できるように、そうした情報を会議に出してもらえれば、具体的なイメージが持てると思う。
	<b>渡良瀬遊水地エリアの課題について</b>
8	これからの <u>課題は、餌場の多様性</u> である。現地にはまだ餌となる生物が少ない。餌生物の生息環境の整備にはじっくり取り組んでもらいたい。
9	長期的には、湿地再生という視点も加えながら、 <u>短期・長期の両面からの検討</u> が必要である。
10	今の遊水地の環境を維持するには、 <u>ヨシ焼きが必要</u> であることを踏まえて、ヨシ焼きについての対応を検討する必要がある。
11	レジャー利用の面では、 <u>臨時的に飛行制限エリアを設定</u> するなどの記載があるが、そのあたりは <u>利用者と調整・話し合いが必要</u> である。

No.	第2回「検討部会」での指摘（要約）
12	渡良瀬遊水地のコウノトリ・トキの生息環境としての有効性をきちんと評価して、どう環境整備していけば良いかという視点が必要である。
渡良瀬遊水地エリアで現在進行中のプログラム・メニュー例について	
13	自治体（小山市以外）にも生きものの生息状況を調査してもらいたい。 小山市での「なつみずたんぼ」の取組みは、今後の重要な施策のひとつと考えているので、どこかで紹介して欲しい。
14	農地での取組みでは、農業生産基盤の整備とともに既存の水路等を対象とした生息環境の修復等の概念も盛り込んでほしい。
15	生息環境整備には、 <u>市・町の取組みがとても重要となる</u> 。荒廃農地の対策など、市・町が大きく取り組んでいくべきものではないか。
16	渡良瀬遊水地エリアでも <u>地域の市民の皆さんと水田などで大規模な生きもの調査</u> ができればと思う。
アクションプラン策定に向けたとりまとめの方向性について	
17	様々な取組みをする中で、何がどう変わったのかを評価する取組みが必要である。 <u>効果ばかりでなくリスクを想定したまとめ方を加えて欲しい</u> 。
18	「地域振興・経済活性化」については、ラムサール条約の「 <u>ワイズユース</u> 」と「 <u>交流・学習</u> 」という視点を上手く整理した形でまとめてもらいたい。
19	「保全・再生」「 <u>ワイズユース</u> 」、「 <u>交流・学習</u> 」といったラムサール条約の理念を盛り込むことで、このエリアらしいアクションプランになると思う。